

画家たちが愛した

風景の中で暮らす

人々に出会いました。

路地のまち

波太



写実的な海の風景が印象的な鴨川市太海は、昭和のはじめまで「波太（なぶと）」と称していました。

明治から大正にかけて、日本洋画家たちはこの風景を好み、多くの画家たちが足しげく訪れ、たくさんの作品を残しています。

昭和に入り、この地は太海と呼ばれるようになりましたが、まちには今の「波太」のままの時間が緩やかにおだやかに流れています。

波太の時間の流れの中で、心を緩めて歩いてみませんか。



寄り添い暮らす人々。

浜波太漁港を中心に、漁業のさかんな波太。家々は肩寄せ合って建ち並び、その間を迷路のような路地が走る。

路地を歩くと、まず出会うのは、日だまりに集まる人々。作業の途中に手を休めて、談笑する姿や、潮を眺めて明日の漁について相談する姿。自然と日の暖かさに誘われ、思わず座り込み波太の穏やかな時間に身を任せている姿も。

家々があまりに隣接しているため、日照条件の厳しい家屋が多い。そのためか、路地の日だまりにはいつも、誰かがいる。

路地の先に見え折る、波太らしい青色は、明治から大正にかけて画家たちが足しげく通い、絵画に残した青色と今も変わらない。

その青色の海の恵みである磯根の産物は、波太の大切な宝である。

毎年十二月から始まる、磯根の産物の収穫。はばのり、ひじき、わかめ、てんぐさ、あおさ。収穫期は、路地いっぱい天日干しされる姿に出会う。

海とともに生きる、自然の恵みを大切に生きる、波太には今も昔も変わらない、スローペースな暮らしがある。





明治時代の日本洋画家たちが、「西の波切に東の波太」と、日本の二大写生地として称賛した、波太。創業100年の江澤館には、日本洋画家の巨匠・安井曾太郎が逗留した部屋が、当時のまま残されている。

「画家を目指すなら、波太へ行きなさい。」と言葉を残しており、それを受け、有名無名の画家たちが波太を目指した。

波太を歩けば、当時の画家たちが求めた芸術へのインスピレーションに出会えるかもしれない。



波太は、岡波太と浜波太に分けられる。
 浜波太は、丘の斜面に家屋がひしめき、その間を会談の路地が巡っている。
 昔は波太には井戸がなく、この地に嫁いだ女性の仕事は、一日に何度もこの路地を上がり下がり、共同井戸に水を汲みに行くことだった。
 時は流れて、
 時代は便利になれど、
 浜波太の路地は、変わらず。
 波太は、今も昔も変わらない。
 波太のまま。

これからも、
 きつと変わらない風景。



波太旅歩のすすめ

まち歩きだからと、あなどるなかれ。

- 1 履きなれた靴。
動きやすい服装。
- 2 荷物は軽く。
(しかし、名産の鯉節を見たら、欲しくなってしまう
かもしれないので、エコバッグをしのばせて。)
- 3 水分。
(現地調達も可能ですが、素敵な景色をみながら
一服したくなるかもしれないので、お気に入りの
コーヒーやお茶をポットにつめて。)
- 4 絵心のある方なら、スケッチブックを。
- 5 写真がお好きなら、カメラを。
- 6 俳句の心得がある方であれば、俳句短冊を。
- 7 そして、
画家たちが歩いた同じ路地を歩き、
思いをはせる。

波太のいろんな表情を、見つけて下さい。

【波太までのアクセス】

JR 内房線「太海」駅下車。

JR 安房鴨川駅前案内所または太海地区旅館にて路地マップ配布中。

案内所からレンタサイクルで30分サイクリングをして波太へ、という方法も

天気と気候によっては大変おすすめてです。

車で行くなら、

館山自動車道君津 IC ～房総スカイライン～鴨川有料道路～国道 128 号線・・・太海フラワー磯釣りセンターへ。(有料駐車場)

フラワーセンターの数百種類にも及ぶ花や植物たちも、なかなかの見応え。もっともお勧めは、磯の釣り堀。

外房風景と真ん中の美しすぎる磯の風景は、思わず足をとめてしばらく引き込まれるように眺めてしまうことでしょう。